

輝き続けて18年

紙のまちランキング2021

『2022年経済構造実態調査』(2021年実績)

18年連続日本一!

「紙のまちランキング」とは、総務省・経済産業省が公表している「経済センサス」活動調査、または「経済構造実態調査」のうち、「パルプ・紙・紙加工品製造業」の製造品出荷額等が多い自治体を、本市がランキング形式でまとめたものです。

平成16年の市町村合併以降、本市はこのランキングで日本一の座を守り続けてきました。そして昨年11月に公表された最新の調査結果で、本市は18年連続で日本一を達成しました。



新型コロナウイルス感染症による影響下にあった2021年は、前年から続く衛生面への意識の高まりから、特にタオル用紙を中心に衛生用紙の需要が増加。また、巣ごもりにより通信販売の利用が増え、段ボール原紙の需要が増加しました。そして、この年から始まったコロナワクチンの

接種や経済対策事業に伴い、全国的に印刷・情報用紙の需要が高まりました。刻々と変化する社会情勢に、市内紙関連企業は柔軟かつ迅速に対応。その結果、製造品出荷額等は、前年よりも106億円増の5109億円。18年連続で日本一になりました。



紙のまちの礎を築いた手漉き和紙



全国に誇る伝統技術「伊予水引」



最新の抄紙機



多種多様な紙製品が作られている

これまでも これからも「紙」とともに

日本一の紙のまち 四国中央市

私 たちの暮らしに不可欠な「紙」。四国中央市の紙づくりは、時を遡ること約300年前、江戸時代の中期に産声をあげました。当初は、数戸が四国山地に近い山間で、自生の楮や三桠を原料に漉いていたものでした。やがて、それが里に伝わり農家の副業として普及し始めると、地場産業として推奨されるようになり、幕末から明治にかけて大きく発展しました。

当 地の紙加工業の先駆けである水引は、日本髪に用いられる元結の製造に

時 代の変化とともに機械抄き製紙工業が増え、現在ではエックスハイウェイと3つのダム、そして海には四国有数の貨物取扱量を誇る重要港湾三島川之江港を有するなど、紙産業を支える基盤が整っています。

四 国中央市の紙産業は、首都圏をはじめとする大量消費地から遠いなどのハンディを克服するために、早くから商品の多品種化や新規流通ルートの開拓などに取り組み、地域を挙げて今の発展を築き上げました。こうした先人のたゆまぬ努力があり、現在では紙産業における製造品出荷額等は5千億円にも上り、「お札と切手以外なら何でも揃う」、「日本一の紙のまち」と呼ばれるまでになりました。

これからも、「日本で一番輝くまち四国中央市」を盛り上げていきたいと思います。

問い合わせ先
産業支援課 28・6186